



さいとうかずのぶ
齋藤一信議員



市民とともに干拓地内臭気問題の解決に取り組んで頂きたい！

議員 干拓地を囲む多くの自治会や、各種団体から臭気問題解決に向けた、(新たな)協議会設置の陳情書が議会へ届けられ、議長から市長へ提出された。悪臭に対する対応をたずねる。

市長 より実行的な方策を進めていくため、(現在ある)畜産クラスター協議会に有識者等を招き、対応を検討する。臭気の原因や対策については、農家ごとに取組みが異なる部分がある。より専門的、具体的な知識と一定の共通認識のもと、責任を持ってふん尿処理に取り組んでいただくとともに、抜本的な対策をクラスター協議会内で検討したい。

議員 今回のように市民発議で陳情書が上がり、協議会の立ち上げ

を市へ要望したことは過去にない。つまり今が、市民の合意形成の場をつくるには絶好のタイミングだと認識している。市民も責任を負おう、悪臭解決に取り組もうという、意思表示が今回初めて市民側から書面で提出された。このことに対する市長の所見をたずねる。

市長 市民からの要望は重く受け止めているし、においを減じるための方策を前面に立ってやっつけていく。ただ、あくまでも主体は畜産業者、畜産農家である。

議員 (現在ある)協議会の一つのテーマではなく、悪臭問題専門の解決チームを協議体として作り、そこに市民やクラスター協議会も入ってもらおうというぐらいの市民の思いだと理解してほしい。



やまもととしあき
山本俊明議員

定住促進と笠岡市人口対策を問う

議員 笠岡市の人口構造はすでに棺桶型になっており、第7次総合計画で掲げる笠岡づくり戦略は決して平坦な道ではない。今後どのように人口対策と向き合い、持続可能な笠岡・進化するまち笠岡を造るのか、市長の考えをたずねる。

市長 まずは市役所職員の意識を変え、各課が行う施策を確実に成果につなげ、笠岡市の価値を高めていく。施策を実行する部署の幹部職員が強いリーダーシップを発揮し、職員一人一人の能力を引き出すことで困難な課題を克服する。そのため、昨年から職員の意識を変える事に重点を置いて来た。職員は今まで以上に強い使命感を持って業務に取り組んでいる。市民の皆様や企業と共に大きなうねりをつくり上げる。



人口減少時代の笠岡市の土地対策を問う

議員 超高齢・人口減少社会を迎え、土地利用を巡るさまざまな課題が浮き彫りになっている。笠岡市においても土地利用行政の確立は急務である。笠岡市はどのように進めているのかたずねる。

市長 住民の意向や地域の特性を土地利用に反映させ、人口減少にも対応できるコンパクトなまちづくりも考慮しながら、生活サービスを効率的に提供するための地域協定機能を確保しつつ、地区拠点等では小さな拠点の形成を推進していく。土地利用行政は将来の笠岡市のあり方を左右する大きな課題である。土地利用に係る複数の課で連携を強め、情報共有すること、土地の価値を高めた有効利用を図る。